



はじめに

工学振興会の ビジョンとミッション

公益財団法人 新潟工学振興会

理事長 田邊 裕治

本年も各所で豪雨による被害のニュースを耳にする一方で酷暑の夏という声が聞かれる中、本稿をしたためております。皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。新潟工学振興会の活動に日頃よりご理解とご支援を賜り、心より感謝申し上げます。

さて、我が国は現在、少子高齢化の進行とともに、深刻な技術者不足に直面しております。工学分野における技術者は、社会の基盤を支える重要な存在であり、その不足は国家の成長と発展に直接的な影響を及ぼします。これにより、日本の製造業、インフラ、エネルギー分野など、広範囲にわたる産業において、技術革新の停滞や競争力の低下が懸念されています。

このような背景の下、工学研究の在り方と人材育成の重要性がこれまで以上に問われています。工学研究は単なる知識の探求にとどまらず、実社会における課題解決や持続可能な社会の実現に向けた技術の創出を目的としています。私たちは、これまでの成功に安住することなく、新しい視点や発想を取り入れ、社会のニーズに応えるための研究を推進していかなければなりません。

その一方で、技術者の育成においても、従来の教育方法にとどまらず、柔軟で多様なアプローチが求められています。学生たちは、理論だけでなく、実践的なスキルを習得し、変化の激しい技術環境に対応できる能力を養う必要があります。特に、AIやIoT、再生可能エネルギーといった新しい技術領域への対応力を持つことが、今後の日本の技術者に求められる資質であると考えます。

また、教育機関と産業界の連携も、これまで以上に重要な役割を果たします。教育現場での学びを実社会に直結させるためには、産業界との密接な協力が不可欠です。企業と大学、研究機関が一体となり、リアルな課題に取り組むことで、学生たちは現実の問題解決能力を高めることができるでしょう。これにより、卒業後すぐに即戦力として活躍できる人材が育成されるとともに、日本の技術力全体が底上げされることを期待しています。

新潟工学振興会としても、これまでの取り組みを一層強化し、地域社会と連携した工学教育の充実を図るとともに、次世代の技術者育成に向けた支援を惜しまない所存です。具体的には、学生たちの実務経験を積む機会の提供や研究開発プロジェクトへの支援を通じて、現場での実践力を培う環境を整えること、そして若手研究者による地域産業の課題に取り組む研究プロジェクトの奨励、推進を図り、地域経済の発展にも寄与していくことです。

最後に、技術者不足という課題は、一朝一夕に解決できるものではありませんが、持続的な努力と工学研究の深化、そして若い技術者の育成により、日本の技術力を再び世界トップレベルに引き上げることができると信じています。共にこの課題に取り組み、未来の技術社会を支えるための礎を築いていくことができればと考えております。皆様の変わらぬご支援とご協力を宜しくお願いいたします。